

# 安芸の原初を伝える最古の社



民俗学者  
**新谷 尚紀氏**  
1948(昭和23)年広島県生まれ。国立歴史民俗博物館教授、国立総合研究大学院大学教授を経て名誉教授。国学院大学教授および大学院教授を経て大学院客員教授など歴任。主要著書『民俗学とは何か』(吉川弘文館)、『伊勢神宮と出雲大社』(学術文庫版2020)、『神道入門』(ちくま新書)ほか。

## 厳島神社

広島県で有名な神社といえ、やはり宮島の名前で知られる厳島神社でしょう。古くからこの島に祀られていたお宮に平清盛が篤い信仰心を固めていった経緯は「平家納経」の願文に書かれています。小さな6基のお宮を巨大な本殿の中に収めるかたちで、平安京の貴族の壮麗な寝殿造りの宮殿に模して平清盛が仁安2(1167)年に造営した神社です。

な神社です。自家用車はもちろん大手の交通機関、広島電鉄のバスや電車もお祓いを受けてその守護札が車内に祀られ、安全第一が日々心がけられています。その速谷神社の特徴は、安芸国でもっとも古い神社だということです。

## 式内社

日本で古い神社といえば「古事記」や「日本書紀」にも書かれている伊勢神宮や出雲大社が別格です。その一方、各地で古い神社としてはよく「式内社」といわれます。それは延長5(927)年にまとめられた「延喜式」「神名帳」にその名前が載せられている神社という意味です。国家から幣帛(※1)を奉納されていた神社で、全国では2861社ほどありました。出雲国では187社もありましたが、安芸国には3社しかありませんでした。

## 「国造本紀」と速谷神社

これは、速谷神社が、古代律令国家が成立するよりも前からの由緒を伝えている古い神社だったからです。平安前期900年頃成立の『先代旧事本紀』の「国造本紀」には、全国130ほどの国造(※3)の名前とその祭祀する神々が記されており、その中に速谷神社の遠祖とされる阿伎国造(※4)と飽速玉命(※5)の名前があります。

『先代旧事本紀』は江戸時代から偽書であるとされてきていますが、現在の歴史学ではその序文だけが後世の偽作であり、巻10「国造本紀」の部分はある程度信頼できる史料と考えられています。皇極天皇4(645)年の大化改新より以前、律令国家ができてくる前から各地の国造が伝えて

いた系譜の原本があり、それを原史料とする内容が伝えられているということが、古代史研究者の篠川賢氏らによって明らかにされています。

## 官幣社と国幣社

神社における官幣社や国幣社という社格は、桓武天皇の延暦17(798)年から全国の官社をその二つに分けてから以降の位置づけをあらわす呼称です。神祇官から幣帛を受け取るのが官幣社、国司を通して受け取るのが国幣社でした。

しかしその後の長い歴史の中で武家政権の台頭と内乱の時代を経るうちに全国の神社も栄枯盛衰の波に洗われまし。式内社でもそれがどの神社のことか現在ではわからな例も少なくありません。安芸国の式内社の3社はその由緒の古さからそんなことはありませんでした。

## 稲作と水源と神社

神社とは何か、それは古代から稲作の豊穰を祈る装置でした。稲作の基本は水源です。古代に創建された神社の近くには水源があります。多くの人は知らないかもしれませんが、速谷神社も厳島神社も清水が湧く水源が大事に守られてきています。歴史というのは「日本書紀」など文字の記録だけが唯一の資料ではありません。遺跡や遺物や、祭祀の民俗伝承も貴重な歴史の情報資料です。速谷神社と厳島神社が安芸国の古い由緒を伝える神社であることがたつていてのもその水源です。日本最古の神社である出雲大社も、国宝の翡翠勾玉と銅戈を出土した真名井遺跡と真名井の清水とその儀礼、それが大社の創祀の悠遠の原初をものがたつていて

私の約20年にわたる民俗学のフランス調査からいえることなのですが、日本だけでなく神仏への信仰心は純真な祈願と感謝を基本としています。とくに歴史の裏づけのある古い神社や寺院や教会への信仰心は自然の力とその恩恵と脅威に謙虚な心をもつところから心も身体も清められ磨かれ幸福と安穩がもたらされる、という考えによるものです。その点は日本の神社もフランスのシャペルも共通しています。

## 速谷神社

その宮島と海を挟む対岸の廿日市市上平良の小高い場所に祀られているのが、速谷神社です。厳島神社と並ぶ古い由緒を伝えている神社です。地元の広島やその他からも広く「車を買ったら速谷さん」といつて親しまれているように、交通安全祈願の靈験あらたか

山陰道諸国に非常に多かったのはなぜか。それは式内社というのが中央王権の安穩と、もう一つは対外的な唐や新羅と対峙する意識の中での神社だったからです。比較的安全な瀬戸内海に面する山陽道の安芸国には少なかつたのです。そのような安芸国で、名神

これは、速谷神社が、古代律令国家が成立するよりも前からの由緒を伝えている古い神社だったからです。平安前期900年頃成立の『先代旧事本紀』の「国造本紀」には、全国130ほどの国造(※3)の名前とその祭祀する神々が記されており、その中に速谷神社の遠祖とされる阿伎国造(※4)と飽速玉命(※5)の名前があります。

明治政府は神社の国家管理の政策を進め、明治4(1871)年の太政官符で律令制下の方式にならない新たに官幣社と国幣社という近代の社格を定めていきました。速谷神社は佐伯郡五日市村出身の佐上信一内務省神社局長ら地元の有識者を中心にした社格の昇格や社殿造営へ向けての運動、そして近隣の24の町村からの4千人を超える勤労奉仕や樹木の寄進などもあつて、大正13(1924)年に国幣中社へと昇格しました。ただし

敗戦によりその社格制度は廃止され、現在は神社本庁が定める別表神社という位置にあります。

※1 幣帛：神への捧げ物  
※2 伊都伎嶋神社：現在の厳島神社  
※3 国造：大化の改新以前に朝廷から任命され、その地方を統治した豪族  
※4 阿岐国造：安芸国を統治した豪族で、速谷神を先祖神として祀った  
※5 飽速玉命：速谷神社の御祭神の名前  
※6 芸藩通志：江戸時代に広島藩が作成した地誌